

大地の恵み、そのまんま。菊池のきゅうり

－ J A 菊池胡瓜部会 －

経営体の概要

設立年度：平成8年
 基幹作物：きゅうり
 経営面積：9ha（受益地：9ha）
 農家戸数：31戸

取組の経緯と営農転換のポイント等

本地域では、事業実施以前から抑制きゅうりが導入されていたが、促成・半促成すいかと秋播きはくさいが主であり、水の確保が必要なきゅうり栽培は振興しづらい状況にあった。しかし、事業が始まり、JA菊池西合志中央支所胡瓜専門部会（昭和60年）が組織され、その後、水が安定的に供給されるにともない春夏すいかとの組み合わせによる抑制きゅうりが定着し、本格的な共販出荷が開始された。その後、平成8年に「JA菊池胡瓜部会」として組織を広域化し、さらなる栽培技術の向上と計画的な作付けの実現による農家経営の安定化を図っている。

営農改善のポイント

①栽培技術の確立・向上

水利用効率が改善され高度なかん水管理が可能となったことに加え、抑制栽培では定植期が高温期にあたるため、定植時の遮光資材被覆や循環扇の設置、初期生育を抑え気味にする管理技術、台木の選定など、全会員参加による講習会や現地検討会により、技術の高位平準化に努め、収量・品質の安定化に繋がっている。また、全会員がエコファーマーの認証を受け、粘着トラップや防虫網の使用など耕種面から防除に努めている。



現地検討会

②省力化

通水前のポンプアップによるかん水と比較して、濾過器の清掃等管理に要する時間が大幅に短縮され、光熱費が40%程度低下した。また、すいかとの組み合わせのため、購入苗を利用し、併せて暑い時期の栽培かつ短期間の作型ならではの独自の整枝技術を確立するなど省力化に取り組んでいる。



上：微小害虫対策（防虫網）



循環扇と遮光設備（高温対策）

②販売・流通の工夫

JA菊池のブランドである「きくちのまんま」を前面に出し、広島・福岡市場を中心に大阪や地元青果会社などに市場流通を展開し、一定の評価を得ており、それが長期生産につながっている。きゅうりは収穫に時間と労力を要するため、売れ筋であるMサイズ中心の適期収穫を励行し、曲がり果等の発生を抑えるなど、秀品・優品の占有率65%を維持できるよう適正管理に努めている。

事業概要

事業種 国営かんがい排水事業
 関係市 熊本市（旧植木町）、山鹿市（旧山鹿市、旧菊鹿町、旧鹿本町、旧鹿央町）、菊池市（旧菊池市、旧七城町、旧泗水町、旧旭志村）、合志市（旧合志町、旧西合志町）、大津町
 受益面積 4,680ha
 事業期間 昭和54年度～平成8年度
 事業目的 畑地かんがい、用水改良

位置図



<問い合わせ先>

九州農政局資源課
 TEL:096-211-4662
 （内線：4666）

（平成21年調査時点）